

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-245357
(43)Date of publication of application : 24.09.1996

(51)Int.CL A61K 7/48
A61K 7/00

(21)Application number : 07-046001 (71)Applicant : SHISEIDO CO LTD
(22)Date of filing : 06.03.1995 (72)Inventor : HOSOKAWA KINYA
NISHIYAMA SEIJI

(54) COSMETIC

(57)Abstract

PURPOSE: To obtain a cosmetic which can prevent skins from becoming moisture less with its high moisturizing action without greasy feeling by emulsifying a low-viscosity silicone oil using an alkyl-modified carboxy vinyl polymer and adding the emulsion to a cosmetic containing a moisturizer.

CONSTITUTION: This cosmetic comprises (A) at least one humectant selected from polyhydric alcohols and organic acid salts (particularly glycerol), (B) a chain (acyclic) and/or cyclic silicone oil such as hexamethylidisiloxane, octamethyltrisiloxane having a viscosity of 10 or less cSt at 25° C and (C) an alkyl-modified carboxyvinyl polymer. This cosmetic desirably contains no surfactant. The amounts of components to be formulated in this cosmetic are each (A) 0.1-50wt%, preferably 1-20wt%, (B) 0.1-50wt%, and (C) 0.01-2wt%.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 05.03.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-245357

(43)公開日 平成8年(1996)9月24日

(51)IntCl.⁶

A 6 1 K 7/48
7/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 6 1 K 7/48
7/00

技術表示箇所

C
J
W

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全9頁)

(21)出願番号

特願平7-46001

(22)出願日

平成7年(1995)3月6日

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72)発明者 細川 欣哉

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地株式
会社資生堂第1リサーチセンター内

(72)発明者 西山 聖二

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地株式
会社資生堂第1リサーチセンター内

(74)代理人 弁理士 福森 久夫

(54)【発明の名称】 化粧料

(57)【要約】

【目的】 本発明は、高い保湿効果を維持しながら、べたつき感のない使用性の高い化粧料を提供することを目的とする。

【構成】 多価アルコールおよび有機酸塩より選ばれる少なくとも一種の保湿剤と、25°Cの粘度が10cSt以下である鎖状および/または環状シリコーン油と、アルキル変性カルボキシビニルポリマーと、を含有することを特徴とする。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 多価アルコールおよび有機酸塩より選ばれる少なくとも一種の保湿剤と、25°Cの粘度が10cSt以下である鎖状および／または環状シリコーン油と、アルキル変性カルボキシビニルポリマーと、を含有することを特徴とする化粧料。

【請求項2】 実質的に界面活性剤を含有しない請求項1に記載の化粧料。

【請求項3】 前記保湿剤がグリセリンである請求項1または2に記載の化粧料。

【請求項4】 前記鎖状および／または環状シリコーン油の含有量が0.1～50重量%である請求項1～3のいずれか1項に記載の化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は化粧料に係り、さらに詳しくは保湿効果が高く、皮膚の乾燥を防ぐ化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来から健康な皮膚を保つためには水分の保持が不可欠であり、保湿を目的とした化粧料が数多く市販されている。これらの多くには保湿効果をあげるために、多価アルコール類や有機酸塩等が配合されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、これらの保湿剤はその効果を上げるために配合量を増やすと、べたつき等が増加してしまい、化粧料の使用性が低下するという問題がある。そこで、本発明は、高い保湿効果を維持しながら、べたつき感のない使用性の高い化粧料を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明は、保湿効果が高く、かつ使用面に優れた化粧料を得るべく鋭意研究を重ねた結果、保湿剤を含む化粧料に、低粘度のシリコーン油を、アルキル変性カルボキシビニルポリマーで乳化させることにより、上記の問題を解決することを見いたし、本発明を完成するに至った。

【0005】 すなわち、本発明の化粧料は、多価アルコールおよび有機酸塩より選ばれる少なくとも一種の保湿剤と、25°Cでの粘度が10cSt以下である鎖状および／または環状シリコーン油と、アルキル変性カルボキシビニルポリマーとを含有することを特徴とする。

【0006】 さらに、本発明は、実質的に界面活性剤を含まないことを特徴とする。

【0007】 また、前記保湿剤はグリセリンであるのが好ましく、前記シリコーンの含有量が1～30重量%であるのが好ましい。

【0008】 本発明で用いられる保湿剤は、グリセリン、プロピレンジコール、1,3-ブチレンジコー

ル、ジプロピレンジコール、乳酸ナトリウム、ピロリドンカルボン酸ナトリウム、ヒアルロン酸ナトリウム等である。特にグリセリンがこのましく、保湿効果が一層向上する。保湿剤の配合量は0.1～50重量%、好ましくは1～20重量%である。0.1重量%以下では保湿効果が期待できず、30重量%以上では使用感の点で好ましくない。

【0009】 これらのべたつきを軽減させるシリコーン油は25°Cの粘度が10cSt以下のものであり、ヘキサメチルジシロキサン、オクタメチルトリシロキサン、メチルポリシロキサン、ヘキサメチルシクロトリシロキサン、オクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、メチルポリシクロシロキサン等が挙げられる。その配合量は化粧料中0.1～30重量%が好ましく、より好ましくは0.5～20重量%である。0.1重量%以下ではその効果は発揮されず、30重量%を越えて配合してもその効果をさらに向上させることはできない。また、粘度が高いものを使用してもべたつきを軽減することはできない。

【0010】 シリコーン油を乳化させるために用いるアルキル変性カルボキシビニルポリマーは、アクリル酸メタクリル酸アルキル共重合体で、例えばBF Goodrich社製のCARBOPOL 1342、PEMULEN TR-1、PEMULEN TR-2などが挙げられ、その配合量は化粧料中0.01～2重量%が好ましく、より好ましくは0.05～1重量%である。0.01重量%以下ではシリコーン油の乳化性が悪く、2重量%以上では粘度が高くなってしまって、製品の工程上好ましくない。なお、増粘剤として通常用いられているカルボキシビニルポリマー（例えば、CARBOPOL 941（BF Goodrich社）、ハイビスワコ-105（和光純薬社）等）では、シリコーンを安定に乳化することはできない。

【0011】 本発明の化粧料には、通常化粧料に用いられる各種の原料が使用できる。

【0012】 液体天然油脂としては、アマニ油、ツバキ油、マカデミアナッツ油、トウモロコシ油、ミンク油、オリーブ油、アボガド油、サザンカ油、ヒマシ油、サフラン油、キョウニン油、シナモン油、ホホバ油、ブドウ油、ヒマワリ油、アルmond油、ナタネ油、ゴマ油、小麦胚芽油、米胚芽油、米ヌカ油、綿実油、大豆油、落花生油、茶実油、月見草油、卵黄油、牛脚脂、肝油等がある。

【0013】 固体油脂としては、カツオ脂、ヤシ油、バーム油、バーム核油、牛脂、羊脂、豚脂、馬脂、硬化油、硬化ヒマシ油、モクロウ、シアバター等がある。

【0014】 ロウ類としては、ミツロウ、ギャンデリラロウ、綿ロウ、カルナウバロウ、ベイベリーロウ、イボタロウ、鯨ロウ、モンタンロウ、ヌカラウ、ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、カボックロウ、サトウキビロウ、ホホバロウ、セラックロウ等がある。

【0015】 エステル油としては、オクタン酸セチル等

のオクタン酸エステル、ラウリン酸ヘキシル等のラウリノ酸エステル、ミリスチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル等のミリスチン酸エステル、パルミチノ酸オクチル等のパルミチノ酸エステル、ステアリン酸イソセチル等のステアリン酸エステル、イソステアリン酸イソブロピル等のイソステアリン酸エステル、イソパルミチノ酸オクチル等のイソパルミチノ酸エステル、オレイン酸イソデシル等のオレイン酸エステル、アジピン酸ジイソブロピル等のアジピン酸ジエステル、セバシン酸ジエチル等のセバシン酸ジエステル、リンゴ酸ジイソステアリル、トリオクタン酸グリセリン、トリイソステアリン酸グリセリン等のトリグリセライド、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン等のトリメチロールプロパン脂肪酸エステル、テトラオクタン酸ベンタエリスリット等のベンタエリスリトル脂肪酸エステル等がある。

【0016】炭化水素油としては、流動パラフィン、オゾケライト、スクワラン、スクワレン、ブリスタン、パラフィン、イソパラフィン、セレシン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス等がある。

【0017】ステロールとしては、コレステロール、シトステロール、フィトステロール、ラノステロール等がある。

【0018】水溶性高分子としては、アラビアゴム、トラガカント、ガラクタン、キャロブガム、グーガム、カラヤガム、カラギーナン、ベクチン、カンテン、クイシヌシード（マルメロ）、デンプン（コメ、トウモロコシ、バレイショ、コムギ）、アルゲコロイド（褐藻エキス）等の植物系高分子、デキストラン、サクシノグルカン、ブルラン等の微生物系高分子、コラーゲン、カゼイン、アルブミン、ゼラチン等の動物系高分子、カルボキシメチルデンプン、メチルヒドロキシプロビルデンプン等のデンプン系高分子、メチセルロース、ニトロセルロース、エチセルロース、メチルヒドロキシプロビルセルロース、ヒドロキシエチセルロース、セルロース硫酸ナトリウム、ヒドロキシプロビルセルロース、カルボキシメチセルロースナトリウム、結晶セルロース、セルロース末等のセルロース系高分子、アルギン酸ナトリウム、アルギン酸プロピレングリコールエステル等のアルギン酸系高分子、ポリビニルメチルエーテル、カルボキシビニルポリマー（G F Goodrich社製CARBOPOL 941など）等のビニル系高分子、ポリオキシエチレン系高分子、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレン共重合体系高分子、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリエチルアクリレート、ポリアクリアミド等のアクリル系高分子、ポリエチレンイミン、カチオンポリマー、ペントナイト、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ラボナイト、ヘクトライト、無水ケイ酸等の無機系水溶性高分子等がある。

【0019】紫外線吸収剤としては、パラアミノ安息香

酸等の安息香酸系紫外線吸収剤、アントラミル酸メチル等のアントラニル酸系紫外線吸収剤、サリチル酸オクチル、サリチル酸フェニル、サリチル酸ホモメチル等のサリチル酸系紫外線吸収剤、パラメトキシケイ皮酸イソブロピル、パラメトキシケイ皮酸オクチル、パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル、ジパラメトキシケイ皮酸モノ-2-エチルヘキサン酸グリセリル、[4-ビス（トリメチルシロキシ）メチルシリル-3-メチルブチル]-3,4,5-トリメトキシケイ皮酸エステル等のケイ皮酸系紫外線吸収剤、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム等のベンゾフェノン系紫外線吸収剤、ウロカニン酸、ウロカニン酸エチル、2-フェニル-5-メチルベンゾキサゾール、2-(2'-ヒドロキシ-5'-メチルフェニル)ベンゾトリアゾール、4-tert-ブチル-4'-メトキシベンゾイルメタン等がある。

【0020】金属イオン封鎖剤としては、アラニン、エデト酸ナトリウム塩、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム、リン酸等がある。

【0021】中和剤としては、2-アミノ-2-メチル-1-ブロボノール、2-アミノ-2-メチル-1,3-ブロバンジオール、水酸化カリウム、水酸化ナトリウム、トリエタノールアミン、炭酸ナトリウム等がある。

【0022】pH調整剤としては、乳酸、クエン酸、グリコール酸、コハク酸、酒石酸、d1-リンゴ酸、炭酸カリウム、炭酸水素ナトリウム、炭酸水素アンモニウム等がある。

【0023】酸化防止剤としては、アスコルビン酸、 α -トコフェロール、ジブチルヒドロキシトルエン、ブチルヒドロキシアニソール等がある。

【0024】抗菌剤としては、安息香酸、サリチル酸、石炭酸、ソルビン酸、パラオキシ安息香酸エステル、パラクロルメタクレゾール、ヘキサクロロフェン、塩化ベンザルコニウム、塩化クロロヘキシジン、トリクロロカルバニリド、感光素、フェノキシエタノール等がある。

【0025】薬剤としては、ビタミンA油、レチノール、パルミチノ酸レチノール、イノシット、塩酸ビリドキシン、ニコチニ酸ベンジル、ニコチニ酸アミド、ニコチニ酸d1- α -トコフェロール、アスコルビン酸リン酸マグネシウム、ビタミンD₂（エルゴカシフェロール）、d1- α -トコフェロール、酢酸d1- α -トコフェロール、パントテン酸、ビオチン等のビタミン類、エストラジオール、エチニルエストラジオール等のホルモン、アルギニン、アスパラギン酸、トラネキサム酸、シスチン、システィン、メチオニン、セリン、ロイシン、トリプトファン等のアミノ酸、アラントイン、アズレン等の抗炎症剤、アルブチン等の美白剤、酸化亜鉛、

タンニン酸等の収斂剤、レーメントール、カンフル等の清涼剤やイオウ、塩化リゾチーム、塩酸ピリドキシン、アーオリザノール等がある。

【0026】各種の抽出液としては、ドクダミエキス、オウバクエキス、メリロートエキス、オドリコソウエキス、カンゾウエキス、シャクヤクエキス、サボンソウエキス、ヘチマエキス、キナエキス、ユキノシタエキス、クララエキス、コウホネエキス、ウイキョウエキス、サクラソウエキス、バラエキス、ジオウエキス、レモンエキス、シコンエキス、アロエエキス、ショウブ根エキス、ユーカリエキス、スギナエキス、セージエキス、タイムエキス、茶エキス、海藻エキス、キューカンバーエキス、チョウジエキス、キイチゴエキス、メリッサエキス、ニンジンエキス、カラットエキス、マロニエエキス、モモエキス、桃葉エキス、クワエキス、ヤグリマギクエキス、ハマメリス抽出液、プラセンタエキス、胸腺抽出物、シルク抽出液等がある。

【0027】また、上記薬物は遊離の状態で使用されるほか、造塩可能なものは酸または塩基の塩の型で、またカルボン酸基を有するものはそのエステルの形で使用することができる。

【0028】さらに、本発明の化粧料には、必要に応じて適当な香料、色素等を乳化安定性を損なわない範囲で添加できる。

【0029】また、モノグリセライド、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、ポリオキ

シエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン脂肪酸エーテル等の界面活性剤を少量添加すると、安定性はさらに向上する。

【0030】本発明の化粧料の剤型は任意であり乳化系、粉末分散系、水-油二相系、水-油-粉末三相系等、どのような剤型でもよい。

【0031】また、本発明の化粧料の用途も任意であり、乳液、クリーム、美容液、パック等のフェイシャル化粧料、ファンデーション、口紅、アイシャドー等のメイキャップ化粧料、ボディー用化粧料、芳香化粧料等に用いることができる。

【0032】

【実施例】つぎに実施例をあげて、本発明を具体的に明らかにする。なお本発明はこれに限定されるものではない。なお、以下に示す配合量は重量%である。

【0033】(実施例1~2、比較例1~3)表1に示す種々の組成の美容液を製造し、しつとりき及びべたつきの使用性について女性パネル20名による官能評価を行った。評価は、表2に示す評価基準に従って行い、結果を表3に示す。

【0034】なお、美容液の製造は、Aの油相部をBの水相部に加えて、乳化機で乳化することによって行った。

【0035】

【表1】

成 分	実施例		比較例			
	1	2	1	2	3	4
A. 油相						
オクタメチルシクロヘキシロキサン (2.5cSt)	3.0	0.1	-	3.0	3.0	-
ホリボリシロキサン(30cSt)	-	-	-	-	-	3.0
B. 水相						
グリセリン	10.0	10.0	10.0	-	10.0	10.0
PEMULEN TR-1 ^①)	0.2	0.2	0.2	0.2	-	0.2
CARBOPOL 941 ^②)	-	-	-	-	0.2	-
バラオキシ						
安息香酸メチル	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
水酸化カリウム	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余
50℃1カ月放置 サンプルの安定性	○	○	○	○	×	○

* 1) PEMULEN TR-1 (商品名) : アルキル変性カルボキシビニルポリマー

* 2) CARBOPOL 941 (商品名) : カルボキシビニルポリマー

【表2】

評点	べたつきの評価	評点	しっとりさの評価
-2	べたつく	-2	しっとりしない
-1	ややべたつく	-1	ややしっとりしない
0	どちらとも言えない	0	どちらとも言えない
1	ややべたつかない	1	ややしっとりする
2	べたつかない	2	しっとりする

【0037】

【表3】
(べたつきについての評価結果)

評点	実施例1	実施例2	比較例1	比較例2	比較例3	比較例4
-2	0名	0名	3名	0名	0名	0名
-1	0名	1名	12名	0名	0名	5名
0	4名	8名	5名	3名	5名	10名
1	6名	6名	0名	7名	8名	5名
2	10名	5名	0名	10名	7名	0名

(しっとりさについての評価)

評点	実施例1	実施例2	比較例1	比較例2	比較例3	比較例4
-2	0名	0名	0名	5名	0名	0名
-1	0名	0名	0名	11名	0名	0名
0	3名	3名	4名	4名	2名	4名
1	6名	5名	7名	0名	8名	5名
2	11名	12名	9名	0名	10名	10名

表3が示すように、低粘度のシリコーン油をアルキル変性カルボキシビニルポリマにより乳化することで、保湿剤によるべたつきを軽減できることがわかる。即ち、本実施例の美容液は、しっとり感が高く、しかもべたつきがない点で極めて優れた使用感を有することが分かった。

【0038】また、アルキル変性カルボキシビニルポリマを配合することで、高温下でも長期間安定性の高い美

容液が得られることが分かった。

【0039】(実施例3) 美容液

表4に示す組成の美容液を、アルコール相(A)を水相(B)に添加し、シリコーン相(C)を加えたのち乳化機で乳化することによって、作製した。

【0040】作製した美容液を実施例1と同様な評価を行ったところ、本実施例の美容液は、実施例1と同様に、しっとりさ・べたつきの点で優れた使用性を示すこ

とが分かった。
【0041】

【表4】

成分	配合量
A. アルコール相	
エタノール	5
パラオキシ安息香酸メチル	0.1
香料	適量
B. 水相	
1, 3-ブチレングリコール	5
グリセリン	5
P E M U L E N T R - 2	0.05
アラントイン	0.3
乳酸	0.2
水酸化カリウム	0.1
メタリン酸ナトリウム	0.05
着色料	適量
精製水	残余
C. シリコーン相	
ヘキサメチルジシロキサン (8 c S t)	0.5

(実施例4) 表5に示す組成の美容液を、Aの油相をBの水相に添加後、乳化機で乳化することによって、作製した。

【0042】作製した美容液を実施例1と同様な評価を行ったところ、本実施例の美容液は、実施例1と同様

に、しっとりさ・べたつきの点で優れた使用性を示すことが分かった。

【0043】

【表5】

成分	配合量
A. 油相	
デカメチルシクロペンタシロキサン (4 c S t)	1
B. 水相	
エタノール	5
ポリエチレングリコール 600	3
グリセリン	10
C A R B O P O L 1 3 4 2	0.2
アロエエキス	0.1
水酸化カリウム	0.1
パラオキシ安息香酸メチル	0.1
メタリン酸ナトリウム	0.05
精製水	残余

【0044】(実施例5) 表6に示す組成の乳液を、Aの油相部とBの水相部をそれぞれ50°Cに加熱溶解させ、Aの油相部をBの水相部に加え、乳化機で乳化し、次に乳化物を熱交換機を用いて冷却して作製した。

【0045】作製した乳液を実施例1と同様な評価を行

ったところ、本実施例の乳液は、しっとりさ・べたつきの点で優れた使用性を示すことが分かった。

【0046】

【表6】

成分	配合量
----	-----

A. 油相	
ラノリンアルコール	0.5
ワセリン	1
流動パラフィン	3
メトキシケイ皮酸オクチル	0.5
モノステアリン酸ソルビタン	0.1
ヘキサメチルジシロキサン(8 c St)	2
ヘキサメチルシクロポリシロキサン(6 c St)	1
パラオキシ安息香酸エチル	0.2
B. 水相	
P E M U L E N T R - 2	0.15
グリセリン	3
ヒアルロン酸ナトリウム	0.1
水酸化カリウム	0.06
エデト酸三ナトリウム	0.1
ニコチン酸アミド	0.1
香料	適量
精製水	残余

【0047】(実施例6) 乳液

表7に示す組成の乳液を、実施例5と同様にして作製した。

【0048】作製した乳液を実施例1と同様な評価を行ったところ、本実施例の乳液は、実施例5と同様に、し

つとりさ・べたつきの点で優れた使用性を示すことが分かった。

【0049】

【表7】

成分	配合量
A. 油相	
スクワラン	8
ワセリン	5
ミツロウ	3
オゾケライト	3
オクタメチルシクロテトラシロキサン(2.5 c St)	3
テトラオクタン酸ペントエリスリット	2
d 1-α-トコフェロール	0.1
ヒドロキシメトキシベンゾフェノン	1
パラオキシ安息香酸ブチル	0.2
B. 水相	
P E M U L E N T R - 1	0.05
プロピレングリコール	5
グリセリン	5
トリエタノールアミン	0.1
d 1-ピロリドンカルボン酸ナトリウム液	1
精製水	残余

【0050】(実施例7) 表8に示す組成の日焼け止めローションを、実施例5と同様にして作製した。

【0051】作製した日焼け止めローションを実施例1と同様な評価を行ったところ、本実施例の日焼け止めロ

ーションは、しっとりさ・べたつきの点で優れた使用性を示すことが分かった。

【0052】

【表8】

成分	配合量
A. 油相	
メトキシケイ皮酸オクチル	5
テトラヒドロキシベンゾフェノン	2
ステアリン酸イソセチル	1
ビバリン酸イソデシル	5
デカメチルシクロペニタシロキサン (4 c S t)	10
トリオクタン酸グリセリル	5
パラオキシ安息香酸エチル	0.2
香料	適量
B. 水相	
P E M U L E N T R - 2	0.3
グリセリン	5
トリエタノールアミン	0.6
精製水	残余

【0053】(実施例8) 表9に示す組成のファンデーションを、Aの油相部とCの水相部をそれぞれ70°Cに加熱溶解し、Aの油相部にBの水相部を加えて乳化機で乳化し、これを50°Cまで冷却後、Bの粉末を加えよく搅拌して作製した。

【0054】作製したファンデーションを実施例1と同

様な評価を行ったところ、本実施例のファンデーションは、しっとりさ・べたつきの点で優れた使用性を示すことが分かった。

【0055】

【表9】

成分	配合量
A. 油相	
流動パラフィン	5
ミリスチン酸ミリスチル	2
ポリイソブテン	2
ラノリンアルコール	2
パラオキシ安息香酸ブチル	0.1
オクタメチルトリシロキサン (2.5 c S t)	1
香料	適量
B. 粉末	
タルク	5
酸化チタン	5
酸化鉄	4
C. 水相	
P E M U L E N T R - 1	0.1
ケイ酸アルミニウムマグネシウム	0.75
水酸化カリウム	0.05
キサンタンガム	0.15
グリセリン	4
クエン酸	0.3
精製水	残余

【0056】(実施例9) 表10に示す組成のクレンジングローションを、Aの油相部とBの水相部をそれぞれ

50°Cに加熱溶解し、Bの水相部にAの油相部を加えて乳化機で乳化し、乳化物を熱交換機を用いて冷却して作

製した。

【0057】作製したクレンジングローションを実施例1と同様な評価を行ったところ、本実施例のクレンジングローションは、しっとりさ・べたつきの点で優れた使用性を得られることが分かったが、保湿剤としてはグリ

セリンを用いた場合に最も保湿効果が優れることが分かった。

【0058】

【表10】

成分	配合量
A. 油相	
ポリオキシエチレンオレイルエーテル	0.3
流動パラフィン	1.0
ミツロウ	2
パルミチン酸セチル	5
ヘキサメチルシクロトリシロキサン (8 c S t)	4
香料	適量
B. 水相	
PEMULEN TR-2	0.1
トリエタノールアミン	0.2
ピロリドンカルボン酸ナトリウム	5.0
パラオキシ安息香酸メチル	0.2
精製水	残余

【0059】

【発明の効果】本発明の化粧料により、即ち揮発性のシリコーン油をアルキル変性カルボキシビニルポリマーにより乳化含有させることにより、保湿剤によるべたつき

を軽減させることができ、しっとりとしていたながらべたつき感のない極めて使用感に優れた化粧料を提供することができる。